

2016 年度春学期 授 業 評 価 報 告

科目区分名	英語英文学科	科目
-------	--------	----

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

本学科のアンケート結果は、質問全 8 項目中（授業レベルに関する問いは除外）、全ての項目において全学平均値を上回る好成績であった。統計的有意性を検定したわけではないが、少なくとも昨年より「**継続的な授業改善**」が見られることは特筆すべき点であろう。

特に、2015 年度、全学平均を下回った項目である「Q3: 知的好奇心の喚起」においては、0.03 ポイントの伸び（4.06→4.09）、全学平均よりも+0.01 となっている。

また、全学平均と比較して最も良かったのが「Q7: 教員の話が聞きやすかった」であった（4.21 [4.11=全学]）。教員が分かりやすく話すことは、内容理解を深め、学生に意欲的に取り組ませるための基盤となるものであり、重要である。

一方、「Q4: 授業外学習時間」は全学（0.67 時間）との比較においては高いが（0.76 時間）、国際教養学科（1.06 時間）や薬学部（0.98 時間）と比較すると依然として低い。本学科の学生には、英語をマスターすべく、listening・speaking・reading・writing の 4 つのスキルを徹底的に学習するというはっきりした目標がある。外国語の授業は、予習復習を前提としているので、授業に参加するには、授業をこえて予習や復習をおこなうのが当然であるが、「同じトピックについて読み・聞き・書き・話す」よう、より一層科目間の連携を深めると多種類の科目をバラバラに学ぶよりも、成果が上がると共に、課外で学習する意欲も喚起されるものと考えられる。

本学科の学生による授業に対する評価が比較的高いことが確認できたが、今後取り組むべき方向性として以下 2 点を指摘しておきたい。

- ① 特に ICT（まなばなど）や**協同学習**を授業内外で有機的に組み合わせ、授業の工夫（Q5）を更に進められるよう学科内で授業交換を進める。
- ② **質の高い授業**を産み出すために、他大学でも実施されているような授業公開を一層進める。そのために、春学期同様、全専任教員が 2 回程度、極めて短時間（1-2 分）**授業のビデオ撮影**をし、学科内で自由に視聴できるよう検討したい。

最後に、今回の結果に満足するのではなく、授業こそがリベラルアーツ大学の中核であることを再認識し、一層の授業改善に向けて学科内でも意思統一を図りたい。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。

教育開発支援センター